



年頭挨拶

北海道開発局長 本多 満

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年の北海道を振り返ってみますと、駒大苫小牧高校の夏の甲子園2連覇や全国的な人気を集める旭山動物園の夏の入園者数が過去最高を記録、北海道新幹線の新函館―新青森間の着工など、夢や希望、北海道の自信を呼び起こさせる明るい出来事がありました。また、知床地域の世界自然遺産登録や、ラムサール条約登録湿地が6箇所追加され12箇所となるなど、北海道のすばらしさに世界が目じた年でもありました。

北海道は、我が国の面積の5分の1を占め、本州とは異なる気候、ゆとりある国土、豊かな自然に恵まれた風土から、多くの国民に愛されている地域です。

また、全国の耕地面積の約4分の1を占め、我が国の食料基地として重要な役割を担っていること、北方型の独特で豊かな自然環境に恵まれ、美しく雄大な農村景観が形成されている地域であることなど、他地域にはない特性と個性を備えている地域でもあります。

そうした特性を踏まえ北海道は、ア) 質・量両面にわたる我が国の食料基地としての役割を強化すること、イ) 知床地域を始めとする豊かな自然環境を保全・再生し次世代に引き継いでいくこと、ウ) 北海道に対する「アジアの宝」という評価や、観光地としての人気の高さに応え、国内外を問わずより多くの方に北海道のすばらしさを体感してもらうこと、などの期待に応えていくことが求められていますし、応える力があると思います。

北海道の開発は、北海道開発法の下、豊富な資源や広大な国土を活用し、その時々我が国の課題の解決に寄与することを目的として策定される「北海道総合開発計画」に基づき、計画的・総合的に進められてきました。その結果、下水道、公園等の生活環境分野では着実に整備水準が向上し、安全でゆとりある地域社会の形成に貢献してきましたが、積雪寒冷な気候、都市間距離が長いなどの制約条件のほか、一部の社

会資本整備の進捗状況が低水準に留まっており、地域の潜在的な能力の発現を阻害する要因ともなっています。

今後の北海道開発の推進に当たっては、北海道が我が国の課題の解決に寄与し、期待される役割を十分果たしていくため、環境や社会への様々な影響に配慮しつつ、高規格幹線道路など未だ立ち後れた分野を中心に、地域の個性と活力が発揮されるような社会資本整備の推進を図ることが必要であると考えています。

本年9年目を迎える第6期北海道総合開発計画は、その効果的な推進を図るとともに、計画の仕上げに向け、より一層事業の効果的・効率的な実施が必要と考えています。

昨年の国勢調査の速報では、北海道の人口は5年前に比べ約5万人減少しており、予測されていた人口減少社会の到来が数字上も明らかになってきています。北海道が我が国の課題解決に寄与し、持続的発展に貢献していくためには、そうした人口減少社会においても地域の活力を維持し、安全な食料の安定的供給、世界的な観点からの自然環境の保全、観光交流の促進など国民の多様な自己実現の場の提供などについて、中心的な役割を果たしていくことが求められています。そのためには、地域に密着し、変化に柔軟に対応するきめ細かな開発行政が重要であると考えており、地域連携会議など様々な機会を通じ地域の声を聞き、地域における関係機関との連携・協力を進め、さらには地域間の連携、ハード・ソフトの連携など、重層的・多様な連携・協働である、いわゆる幅広く多様な連携による「複合連携」を推進し、地域の課題の解決や発展を図ることが必要であると考えています。

皆様のご健康と益々のご活躍を祈念するとともに、北海道開発局に対するご指導、ご鞭撻をお願いして新年の挨拶といたします。